

第3号様式

平成25年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）成果

分類番号	A28	取組名称	保養地としての天橋立考：水際の保養文化に関する史的国際研究		
研究代表者：		生命環境学部（研究科） 職・氏名：講師・松田法子			
研究担当者：					
京都府立大学（青地伯水、阿部拓児、井上直樹、上杉和央、岸本恵実、藤本仁文（敬称略）） 外部分担者・協力者（宮津市教育委員会 河森一浩氏 ほか）					
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）					
京都府宮津市（教育委員会生涯学習課） など					
【研究活動の要約】					
本研究は、①天橋立の保養観光地としての特質や価値を国内外の比較を通じて明らかにすること、②公開講座や出版事業を通じて、地域住民や府民にひろく研究成果の周知をはかること、の大きく2点を目的として活動した。[a] 学内における定期研究会の開催、[b] 現地調査・研究会の開催（11月）、[c] 現地ミニシンポジウムの開催（3月）などを行うことで、①に資するための学際的な共同研究を進めると共に、②に資する初年度の活動としては、宮津市および橋立の住民・観光業関係者の方々を主な対象とする成果公開を行った。また、地域に残る絵はがきや古写真などの史料調査を実施すると共に、全国の近代保養地との比較研究を行うため、近代に開設された海水浴場の創始時期・所在地調査を進めた。					
【研究活動の成果】					
<ul style="list-style-type: none">宮津市文珠地区にて地域住民を交えたミニシンポジウムを開催し、今年度の研究成果を代表して計4本の報告を行った。報告者と報告タイトルは次の通りである。松田法子「近代日本と海水浴」、藤本仁文「近世宮津周辺地域の船旅と舟運」、宮下遙・上杉和央「近代の写真絵はがきからみる天橋立」、青地伯水「マルクト・バート・アバッハ：ドイツのある温泉町の歴史と現在」。同シンポジウムでは報告終了後に地域住民との意見交換会を開催し、本研究会の次年度以降の活動に関する希望・要望やさらなる連携に向けた意見交換を行った。定期研究会ではメンバー全員が報告を行い、情報の共有をはかるとともに、来年度以降の成果公開に向けた準備を進めた。宮津市教育委員会が所蔵する絵はがき史料数百点を調査し、スキャニングなどデータ整備を行った。近代海浜保養地としての橋立の位置づけについて分析するため、近代に開設された全国の海水浴場について、その創始時期や所在地の調査を行った。					
【研究成果の還元】					
<ul style="list-style-type: none">H25/11/23 宮津市四軒町びんと館 ※関係者等約10名 「保養地としての天橋立考：水際の保養文化に関する史的国際研究」会 現地研究会H26/03/05 宮津市文珠地区公会堂 ※関係者等約10名、地域住民約30名 「京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）ミニシンポジウム 保養地としての天橋立考：保養、海水浴、観光の歴史から考える天橋立」報告書等：H26年度も活動を継続し、その後論文集等をまとめる予定である。					
【お問い合わせ先】 生命環境学部（研究科） 松田研究室 講師・松田法子 Tel: 075-703-5434 E-mail: matsuda@kpu.ac.jp					

参考（イメージ図、活動写真等）

[2013年11月23日／現地研究会・調査の様子]



[2014年3月5日／現地ミニシンポジウム ポスター・会場の様子]

